インフォーメーション・クリップ

子どもNPOセンター Information Clip

報告

チャイルドライン報告書



ふくいチャイルドラインの年次報告として、実施要項、電話のデータ分析、受け手の研修などが掲載されています。この報告書は県内の小学校、中学校すべての教育機関にも届けられ、チャイルドラインの大きな役割である今の子どもの状況を社会に伝えています。ご希望の方は事務所までお問い合わせください。

子ども会のイベントやお祭りなどで 子どもNPOセンターの 楽しい「手作り遊び」を使ってみませんか?

◎スマートボール　◎カウボーイ輪投げ
◎巨大ジェンガ　◎千本引き
◎空き缶つりぼり　◎皿まわし など

お気軽にお問合せください。



つながる募金

HPから簡単に子どもNPOセンターに寄附ができます。ソフトバンクが提供する「つながる募金」の寄附サービスを利用開始しました。ぜひともご支援を宜しくお願い致します。

ご支援はこちらから

認定NPO法人 福井県子どもNPOセンターにご支援ください。

子どもNPOセンターは、国際条約でもある「子どもの権利条約」に沿って子どもの最善の利益を考えて日々の活動をつないでいます。

A. 賛助会員
子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動を支援する会員。
- ●個人　一口年額／ 5,000円
- ●団体（法人）　一口年額／10,000円

B. ボランタリー会員
子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動にボランティアとして協力・参加する個人。
- ●個人　一口年額／ 1,000円

C.一般寄附も受け付けています。

入会方法

郵便振替の通信欄に、
❶住所 ❷氏名 ❸電話番号
❹会員の種類（左記ABCいづれか）
❺口数 を記入してお振込みください。

郵便振替
00770-1-45546
福井県子どもNPOセンター

◎税制上の優遇措置について

「認定特定非営利活動法人」へのご寄附や、正会員以外の年会費等は、下記のような税制上の優遇措置（寄附金控除）が受けられます。ぜひご利用ください。

❶個人のご寄附
【所得税】（寄附金の合計額 ー2,000円）×40%が税額控除されます。［上限：所得税額の25%］
【住民税】自治体によって異なります。お住まいの自治体にお問い合わせください。
【相続税】相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に寄附した場合、寄附をした財産には相続税が課税されません。

❷法人のご寄附（法人税）
認定特定非営利活動法人への寄附金の特別損金算入限度額が改正されました。(2012/4/1)
{（資本金×（当期の月数÷12）×0.375%）＋（所得の金額×6.25%）}

※詳細については、最寄りの税務署にお問い合わせ下さい。また、国税庁のウェブサイト（国税庁＞申告・納税手続＞認定NPO法人制度）でも手続きの詳細が掲載されています。

団体正会員

鯖江子ども劇場	〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20 鯖江市民活動交流センター内
小浜子ども劇場	〒917-0231 小浜市国分50-9 TEL.0770-56-2867
勝山子ども劇場	〒911-0811 勝山市片瀬町1-402 勝山市民活動センター内 TEL.0779-87-1011　FAX.0779-87-1022
NPO法人 福井芸術・文化フォーラム	〒910-0019 福井市春山2-7-1（福井市文化会館内） TEL.0776-23-6905　FAX.0776-23-7905

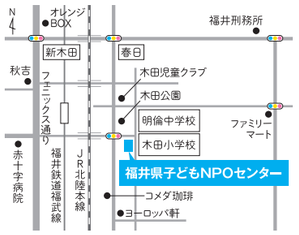
福井県子どもNPOセンターを支援しています。

- ●有限会社アドヴァンス近信（福井市）
- ●池田歯科医院（勝山市）
- ●大月産婦人科クリニック（福井市）
- ●春日装備株式会社（福井市）
- ●上屋敷工業株式会社（福井市）
- ●カフェリビングsu_mu（福井市）
- ●さわやか矯正歯科クリニック（福井市）
- ●第一防災株式会社（福井市）
- ●千歳工業株式会社（福井市）
- ●つちだ小児科（坂井市）
- ●光タクシー有限会社（福井市）
- ●福井県映画センター（越前市）
- ●まきレディースクリニック（福井市）
- ●三井皮膚科医院（福井市）
- ●やしろ歯科クリニック（福井市）
- ●山内整形外科（福井市）
- ●六感デザイン（福井市）
- ●Vivan（勝山市）

Hop on Hop off

一人暮らしをはじめる我が子に防災リュックをプレゼントした。小さい頃、リュックといえばおにぎりが出てくる魔法の鞄でときめいていた。今は生きのびる為の味方が出てくる心強い鞄。さあ、しっかり生きていけ！ (suger)

記事、情報に関するお問い合わせは福井県子どもNPOセンターまで
認定NPO法人
福井県子どもNPOセンター
〒918-8106 福井市木田町36-1 コーポ木田201号
TEL.0776-97-8460　FAX.0776-97-8461
E-mail childnpo@muse.ocn.ne.jp
URL http://childnpo.com　見てね！



企画・編集／福井県子どもNPOセンター　デザイン／六感デザイン

Take Free［無料］

Let's Channel 66号 2020年6月1日発行 通巻第66号

「今」を生きる子どもたちと、かつて子どもだった大人たちをつなぐ情報誌。

バックナンバーは こちらから

こども Channel チャンネル

みる　きく　あそぶ　かんがえる

2020 66号

発行：認定NPO法人 福井県子どもNPOセンター　URL：http://childnpo.com

未来のたね

子どもの権利条約

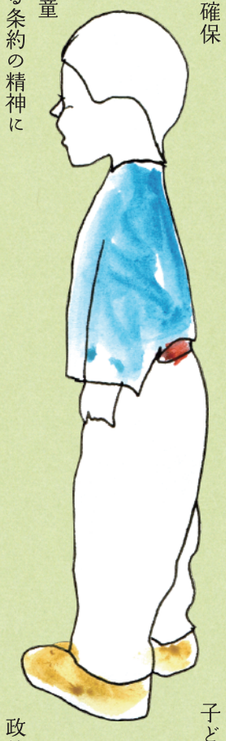
～国連採択30年、日本批准25年を受けて～

子どもの権利条約ネットワーク事務局長
浦和大学 社会学部 准教授
林　大介 氏

国連採択30年、日本批准25年を向かえた「国連子どもの権利条約」

2019年は、国連子どもの権利条約（以下、条約）が採択されて30年、日本が批准して25年の節目の年であった。いじめ・子ども虐待をはじめ、子ども・子育て等を取り巻く状況が引き続き社会的問題になっており、それら（数値や事件）をきっかけにした、国の立法制定や計画策定等（児童虐待防止法・児童福祉法の改正、いじめ防止対策法、子どもの貧困対策法、教育機会確保法等）が、この間、取り組まれている。

児童福祉法2016年改正では、その第1条「目的」が、「全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり（以下略）」というように全面改正となった。条約について児童福祉法に明記されたことは画期的であり、これを活かすことが重要となる。しかし、子どもを守る／子どもを保護の対象とする法律は多数あるが、子どもを権利の主体として位置づけ、その権利を保障する総合的な法律は、日本の子ども法制において基本的に存在していない。条約に対応し、子どもの権利の享有・行使を促進・支援するような法律が必要となっている（自治体においては約50の自治体（の権利）条例」を制定している）。



国連子どもの権利委員会による審査結果とSDGs

国連・子どもの権利委員会が、2019年1月、日本政府に対して出した勧告における「総括所見」では、「子どもの権利に関する包括的な法律を採択し、かつ国内法を条約の原則および規定と完全に調和させるための措置をとるよう、強く勧告する」等、日本政府が子どもの権利の保障を行うために力を入れるべき事柄についての指摘も含まれている。さらに2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030（持続可能な開発目標、SDGs）」にも、目指す世界は「子どもたちに投資し、すべての子どもが暴力や搾取から解放される世界」とされている。国連子どもの権利委員会からも、SDGs実施プロセスを、子どもの権利条約にしたがって、子どもの権利の実現確保をするよう、また17の目標達成のための政策の立案や実施に、子どもが意味のある参加をするよう促している。

子どもを「社会の宝」にとどめず、社会の一員・構成員に

条約は、「18歳未満を子ども」とし、「子どもの意見の尊重」「表現の自由」「結社・集会の自由」等を定め、条約が保障する子どもの権利を実現する「子どもにやさしいまちづくり」においては、18歳未満の子どもも権利主体として積極的に関わることができる機会を創り出すこと、意思決定過程において子どもの意見を反映させることを重要視している。子どもは単に「未来」の担い手ではなく、「いま」を生きる主体である。国連から指摘されても改善が進まない日本において、主権者意識を育むことは、そう簡単なことではないことも、事実として認識しておく必要がある。

福井県しあわせ基金助成事業

大人が学びあう講座 2019

報告

子どもの居場所 ～私たちの知らない子どもの“今”～



生きづらい子どもが増えているのはなぜだろうか？講師のひとりは個別教育の必要性に、別の講師は貧困を生む格差社会に、またもうひとりは適切な社会的支援に声をあげた。子どもが心を休めて回復する場である「居場所」の背景には子どもを取り巻く複雑な社会の問題がある。
今の状況をつくっているのは「みんな」だから、それは私であり、あなたであり・・・講師の資料の一節にこれからの生き方を問われた。

講演感想

学校ではない、地域という居場所について知ることができた。学校の限界を感じていたが一緒に支えてくれる「地域」の存在の大きさに気が付いた。

貧困な家庭で育っている子どもや障害をもつ子どもに、いくつかの選択肢や可能性を引き出していけるような支援ができたらいいと思います。

経済的困窮というのは世代間で連鎖していく、これを断ち切るためには地域全体で支え合うことが大事だと思った。私もその一員として支援できることはしていきたい。

大人として自分は何ができるのか？子どもが自信をもつために、大人になって社会でくじけそうになった時またもう一歩踏み出せるために…それを考えさせられました。

特別企画 上映会	「さとにきたらええやん」 ■とき：11月29日（金）10：00～、18：30～（上映100分） ■会場：ユー・アイふくい3階映像ホール　■参加者：100人
第1回 講演	「地域で暮らす」、「地域で育つ」を地域で支える、支え合うために ■講師：野尻 富美氏（越前市「みんなの食堂」代表） ■とき：12月1日（日）10：00～12：00 ■会場：福井県社会福祉センター4階研修室　■参加者：19人
第2回 講演＆対談	子どもが安心できる場所を目指して ■講師：小野寺 玲氏（福井スコーレ代表）、竹澤 賢樹氏（福井県社会福祉士会 会長） ■とき：1月12日（日）10：00～12：00 ■会場：福井県社会福祉センター4階研修室　■参加者：68人
第3回 講演＆あそびのワークショップ	子どもが明日も行きたいと思える居場所とは ■講師：宮川 浩氏（大阪府 放課後児童支援員） ■とき：1月17日（金）9：30～12：00 ■会場：福井県立図書館多目的ホール　■参加者：53人
第4回 講演	学習支援から見えてくる子どもの姿とその支援 ■講師：渡邊 一幸氏（あわら敬愛子ども園 園長） ■とき：2月22日（土）10：00～12：00 ■会場：福井県社会福祉センター4階研修室　■参加者：46人









子どもフェスティバル 2019

～子どものチカラ大集合～

報告

■とき：10月26日（土）11時～15時
■会場：ハピリン（ハピテラス、ハピホール、リハーサル室）
■「ボクたちのお店」出店小学生：189名（66店舗）　■お客さん：1,000人
■人形劇団あっけらかん「だるまちゃんとてんぐちゃん」参加者：44名
■協力団体：西武福井店・社会福祉法人福井県セルプ
一般社団法人生命保険協会 福井県協会

今年で7回目となる「ボクたちのお店」はハピテラスとハピリンホール、2つの会場で行いました。通りがかりの人も子どもの元気な声にさそわれて思わずお客さんに。手作りの剣や切り紙、木の実クラフトなどオリジナリティー溢れる商品を見ながら子ども店長さんとの会話も弾んでいました。
また、会場では高校生をはじめ多くの方にボランティアとして、子どもたちを見守っていただきました。今回の子どもフェスティバルは、小学生を中心に、幼児、中高校生、大学生、そして大人たちと様々な世代がつながる機会となりました。





ボクたちのお店





西武福井店 子どもの靴 下取りサービス
ザンビア共和国の子どもに贈るため、たくさんの子ども靴が集まりました。



福井セルプ
おいしいタコスとコーヒーはいかが？

演劇キッズ 2019

表現ひろば

■練習：18回（土曜日　9時～12時30分が15回、9時～16時が3回）
■会場：福井県社会福祉センター、福井市研修センター
■講師：梅田美千代氏　■アシスタント講師：鷲田静佳氏
■発表：2月29日（土）「風のかたち」
■脚本・演出：梅田美千代氏　■観客：70名



表現活動を通して子どもの成長を育む演劇キッズは今年で5回目、7月から18回の練習を行いました。コロナウィルス感染拡大防止のため、ホールで予定していた発表会は中止せざるをえなくなりましたが、最終練習日を発表会にふりかえて保護者の方に見てもらうことができました。

21名のキッズは、7月に出会ってからシアターゲームなどでしだいに距離を縮め、9月に台本を手にしてからは、皆で考え自由に意見を出し合いお芝居作りに取り組んで来ました。仲間と出会い、役と出会い、それぞれの個性が刺激し合い、こちらの想像を超えた場面が出来上がりました。時にはヒートアップし、悔しい思いもしたけれど、互いを認め合い自分の中に新しい発見をし、お芝居作りを通して、実に楽しそうに育ち合いました。
急遽、最終の稽古日が発表になり、舞台は狭く、変更もありましたが、キッズはとても冷静にカバーしあいながら、集まって下さったご家族や関係者の前で、見事に発表することができました。それは、ひとりひとりの責任感が「楽しい発表にするんだ」という思いになったからだと思います。楽しい事も困難な事も、全て成長の糧にしてくれた子どもたちでした。
（講師 梅田美千代氏）



大人が生徒？子どもが先生？ あべこべ学校 2019

子どもゆめ基金助成事業

報告



あべこべ学校は子どもが先生、大人が生徒と立場を入れ替える・・・逆発想でユニークな活動です。今年も10名の子ども先生が、楽しい授業をしてくれました。

■子ども先生：10名　■大人生徒：24名
■ワークショップ：2月9日（日）・16日（日）9時30分～15時30分
2月23日（日）9時30分～13時
■授業：2月23日（日）13時～15時
■会場：福井県社会福祉センター4階　研修室
■メインファシリテーター：島田妙子氏
■ファシリテーター：今坂雄一郎氏
宮川知子氏







三連休の真っ最中にも関わらず24名もの大人生徒さんが来てくださり、会場はちょうどよい混み具合になりました。子どもたちと対話したり、もも上げをしたり、ピアノに合わせてドキドキしたり（来た人だけがわかるネタです）子どもたちと一緒に、大人の皆さんが笑ってくださっていたのが本当に嬉しく、心がみるみる温かくなりました。上手にミスなく授業することを目指すのではなく、「相手の目を見て、様子を確認して、それから伝える」。あべこべ学校は、そういう「最初の一歩の大切さ」に気づいてもらう場所です。
また、子どもを見ている大人が必ずいるということ。いろんな大人がいろんな場所から子どもたちを応援しているということに、大人も子どもも気づく場所でもあります。ほんの数時間でしたが世代を超えて互いを思いやり、ちょっと昔を懐かしんだり、我が子を誇りに感じたり。大人と子どもがひとつになっていたのが何より嬉しかった私です。子どもが育つその瞬間に立ち会えるあべこべ学校。自分の思い通りにならない経験を通して、それぞれの子どもたちがそれぞれの速度で学びを得ていたことと思います。
失敗した分、うまくなる。学ぶタイミングは人それぞれ。第4回目のあべこべ学校は、子どもを見つめるあたたかな眼差しがまだまだ残っていることを改めて知ることができた特別な回となりました。
（メインファシリテーター 島田妙子氏）

ふくいチャイルドライン 受け手ボランティア養成講座

報告

18才までの子ども専用電話
毎日 午後4時～9時
☎0120-99-7777

一回で子どもの電話が受け手につながる確率は約30％です。受け手がもっと増えれば、勇気を出して電話をかけてきた子どもの気持ちに応えることができます。私達は一緒に活動する大人を増やし社会にチャイルドラインをひろく知ってもらうために、毎年受け手ボランティアを募集しています。
子どもの育ちや社会背景を学ぶと「子ども像の思い込み」に気付き、本当の姿が徐々に見えてきます。活動について知ると、「子どもの自分で解決する力」や「自ら歩み出そうとする気持ち」を尊重して子どもの声を聴く大切さに気付き、力みが解消します。
受け手の不安や疑問を減らし、安心して活動をスタートさせるために養成講座は欠かせません。今年度はより充実した研修を目指し「受け手ボランティア養成講座」を二日間の日程で開催しました。

■とき：9月1日（日）・8日（日）　10時～17時
■会場：福井県社会福祉センター4階研修室
■参加者：12名（内受け手登録7名）

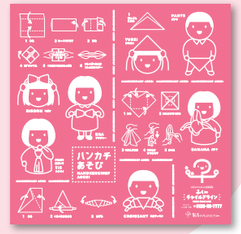
日	時間	内容
9月1日（日）	10:00～12:00	【公開講座】「子どものこころの発達について」講師：青井 利哉氏（福井医療大学 保健医療学部 看護学科）
	13:00～15:00	【ガイダンス】「チャイルドラインから聴こえる子どもの声」講師：外村 まき氏（NPO法人チャイルドライン京都理事長）
	15:00～17:00	【講演】「思春期を取り巻く性」講師：竹内 明子氏（助産師）
9月8日（日）	10:00～12:00	【公開講座】「子どもに権利って必要？～子どもの権利条約30年 その意義と課題～」講師：林 大介氏（子どもの権利条約ネットワーク事務局長）
	13:00～15:00	【ロールプレイ】「聴く力は愛する力」講師：向井 清和氏（上級カウンセラー）
	15:00～17:00	【ガイダンス】「福井県子どもNPOセンターについて」谷内 由美子（福井県子どもNPOセンター理事長） 「ふくいチャイルドラインについて」岡田 伊佐央（ふくいチャイルドライン室長）

子どもの声をつなぐ

あそべるおっきなハンカチ

2019年度、あそべるおっきなハンカチによる寄附は128,482円でした。
ふくいチャイルドライン活動資金とさせていただきました。ご支援ありがとうございました。

◎お求めは事務所まで



福井市木田児童クラブ運営委員会委託事業

木田児童クラブサポート事業

報告

「子どもへのメッセージ」

一年間クラブで頑張った子どもたち130名に「小さい○が消えた日」という本をプレゼントしました。「私もあなたも、誰だってかけがえのない大切なひとり。」そんなメッセージが子どもたちに届きますように。



発行所 ㈱三修社